

2020年12月17日

## HSBC、中国本土で初となる QFII/RQFII による プライベート・ファンド投資を支援

HSBCは中国本土における適格外国機関投資家および人民元適格外国機関投資家（「QFII/RQFII」）の枠組みによる初のオンショア・プライベート・ファンド投資を支援しました。HSBCはベアリング・アセット・マネジメント・リミテッドが実行した、この市場では初となる今回の取引でカスタディアンとなり、投資範囲更新の届出、支払取引、資産の保管などのサービスを提供しています。このファンドの投資対象となったのは、中国本土で私募投資基金管理免許（PFM）を与えられた完全外資企業（WFOE）であるベアリング・インベストメント・マネジメント（上海）リミテッドが設定した初のプライベート債券ファンドです。

2020年11月1日に施行された新たなQFII/RQFII関連規則では、外国機関投資家が投資可能な投資対象の範囲が拡大され、現在では、証券会社または先物会社、さらに中国証券投資基金業協会に登録されたプライベート・ファンド運用会社が合法的に設定したファンドが含まれるようになりました。新しい規則では、参入するための必要条件も緩和され、諸手続きも、投資枠の撤廃されたQFIIとRQFIIの間で共通化することで簡素化されました。

HSBCアジア太平洋地域、証券サービス部門の責任者であるブライアン・ゴディンズ（Brian Godins）は、次のように述べています。「QFII/RQFIIがオンショア・プライベート・ファンドに投資できるようにしたことは、特に中国本土で設立された私募投資基金管理免許を与えられた完全外資企業（WFOE・PFM）であるオフショア投資家にとっては、重要な前進です。この前進によって、中国国内で販売網を持たない、あるいはブランド認知度が低いWFOE・PFM各社が、オンショア・プライベート・ファンドを設定する際に、提携関係にあるQFII/RQFIIから創業資金を調達することが容易になります。これは単にQFII/RQFIIの魅力を高め、中国本土により多くの外国資本を呼び込むだけでなく、中国国内の資産運用業界の発展にも寄与するとみられます」

HSBCは中国の資本市場開放に引き続き率先して取り組んでいます。また、海外の投資家へサービスを提供している主要な国際的銀行の一つです。2020年

11月には中国本土にあるQFIIを通して証券貸借取引を支援しました。HSBCはグループの国際的なネットワークを最大限に生かすことによって、QFIIおよびRQFIIと認められた海外15市場からの投資家に対する最大のカストディアンとなっています。また、HSBCが中国の銀行間債券市場（CIBM）でカストディサービスを提供している海外機関投資家数、ならびにその顧客預かり資産総額は、すべての決済代理人銀行中で最大規模となっています。

\* 本稿は中国で発行されたプレスリリースを和訳したものです。

**注記：**

**香港上海銀行**

香港上海銀行はHSBCグループの母体行です。HSBCグループは、ヨーロッパ、アジア・太平洋、南北アメリカ、中東、北アフリカにまたがる64の国と地域でお客さまにサービスを提供し、2兆9,560億米ドル（2020年9月末現在）の総資産を持つ、世界有数の金融グループです。

以上